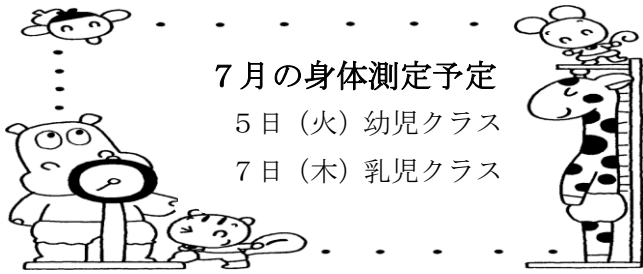




気温・湿度が高くなり暑い夏の到来を感じます。この時期は、「新型コロナウイルス」の他にも、夏に流行する感染症が沢山あるので、注意していく必要があります。又、暑さで体が疲れやすいので、栄養・休息・睡眠をしっかりとって、夏を乗り切っていけるようにしましょう！

<先月の感染症（5月20日～6月20日）>

感染性胃腸炎 乳児 4名
新型コロナウイルス 乳児1名 幼児1名
*その他、乳児クラスでは、嘔吐・下痢の症状でお休みするお子様が多かったです。



7月の身体測定予定
5日（火）幼児クラス
7日（木）乳児クラス

☀️<熱中症にご注意下さい！>☀️

気温・湿度が高くなり、熱中症の予防が重要です。保育園でも十分注意しながら保育を行っていますが、朝食をしっかりと取ることは、熱中症の予防になります。朝食を食べないと、体内の水分・塩分量が低下してしまうため、熱中症を発症しやすくなります。また、睡眠不足も具合が悪くなりやすいです。この時期は特に、「朝食・睡眠」をしっかりと取るようにして下さい!!（朝食メニューは、塩分のあるものを取り入れましょう）。

<歯科検診の結果：今回は、「うさぎさん」（4歳児）の虫歯が急増です☀️>

6月に実施された歯科検診の結果は下記の通りです。うさぎさん（4歳児）の虫歯がとても増えてしまいました……。きりんさん（5歳児）は、歯科医院に通って治療が完了しているお子様が多くなり、虫歯のあるお子様は減っています。きりんさんの保護者の方々が歯科医院に通院して下さった結果だと思います。ご協力有難うございます。今回、歯科検診の当日にお休みをして、検診を受けていないお子様については、歯科検診を各個人で受けて頂くようお願いしております。又、虫歯があるお子様は、受診して治療をして下さい。

<～「虫歯・虫歯になりそうな歯」のあるお子様の人数～>

- 0歳児：0名 ●1歳児：0名
- 2歳児：1名 クラスの 5% （虫歯・虫歯になりそうな歯の合計・・・1名で2本）
- 3歳児：2名 クラスの 8.6% （虫歯・虫歯になりそうな歯の合計・・・2名で12本）
- 4歳児：7名 クラスの 25.9% （虫歯・虫歯になりそうな歯の合計・・・7名で25本）
- 5歳児：2名 クラスの 8.6% （虫歯・虫歯になりそうな歯の合計・・・2名で4本）

プールに入れる？ 入れない？

症状が治まったあともウイルスが排泄される病気があり、元気に見えても注意が必要です。プールに入る際の注意点をあげましたので、目安にしてください。なお、判断に迷う場合は、看護師にご相談下さい。

プール入れる

水いぼ	○	プールはOK。ただ、炎症を起こしたり、「とびひ」のようにしている場合は入れません。接触感染するので注意が必要。
しんしゅつせい 滲出性中耳炎	△	耳鼻科を受診し、相談を。症状が安定していればプールも可能なことがあるが、発熱や耳の痛みを訴える場合、プールは禁止。
アレルギー性鼻炎	○	ほかに症状がなければプールはOK。鼻をかんでから入る。
アレルギー性結膜炎	○	症状が落ち着いていれば、プールOK。プールから上がった後、よく目を洗浄。
頭ジラミの寄生	○	登園、プールは可能だが、髪の毛の接触で感染するので、早急に駆除するように。
手足口病	△	症状が軽快してからも、1か月くらいは、便やだ液からウイルスが排せつされる。ただ、一般的には症状が軽いことが多く、プールでの感染よりも日常生活で感染する機会のほうがずっと多いため、本人が元気で登園できるなら、プールもOK。皮膚の状態次第。
ヘルパンギーナ	△	回復してからも約1か月は便やだ液からウイルスが排せつされるが、発熱、のどの痛みがなくなり、食欲が戻って登園できるなら、プールもOK。
咽頭結膜熱（プール熱）	×	感染すると登園停止になり、登園には医師の「意見書」が必要。感染力が非常に強く、ゴーグルやタオルの共有でもうつることがあるので要注意。
細菌性腸炎 （腸管出血性大腸菌感染症）	×	発病すると登園停止になり、登園には医師の「意見書」が必要。保菌者の便から感染することもある。この大腸菌は低温に強く、水の中で長く生存する。ごく少数の菌で感染してしまうので、水質管理が重要。
流行性角結膜炎 （はやり目）	×	感染すると登園停止。登園には医師の「意見書」が必要。感染力が強い。ゴーグルやタオルの共有でうつることがあるので要注意。
とびひ	×	プールの水ではうつらないが、水ほうやびらんがあるときは、水中で皮膚がふやけると悪化しやすい。本人の皮膚の保護のために、プールは避ける。
急性中耳炎	×	症状がある間は、プールには入れない。
外耳炎	×	プールは避ける。傷が治り、外耳の炎症が治まればプールOK。
副鼻腔炎	×	鼻の奥の痛みや黄色い鼻水が出ている間は、プールは避けたほうがよいので、医師と相談を。